

第 22 週

質問 57. 「体のよみがえり」は、あなたにどのような慰めを与えますか。

答え I 私の魂が、この生涯の後直ちに、⁰¹頭なるキリストのもとへ迎えられるだけではなく（キリストが再び来られる時）私のこの体も、キリストの御力によって引き起こされ、再び私の靈魂と結び合わされて、キリストの栄光の御体と同じ形に変えられる、ということです。⁰²

① 人間はこの地において靈魂と体とに構成されて互いに結び合っています。死は、靈魂と体を分離させます（創 35:18、1 列王 19:4）。靈魂は、神的な命として死なないので、体が死んでも靈魂は死なないのです。勿論、死によって体は朽ちて、もとのチリに帰ります（伝道書 12:7、マタイ 10:28）。靈魂は、死によって神の子どもの頭なるキリストに迎えられます。そして、キリストの救いに参与するようになります（ルカ 23:43）。

靈魂は、完全な罪の赦しの喜びに留まるようになります（1 ヨハネ 1:7）。靈魂が、眠る状態になるとか（靈魂睡眠説）、決して煉獄に行くとかではありません（ましてや、神の民もここで数多くの罪が浄化されなければならないと主張している）。

01 ルカ 16:22、23:43、ピリピ 1:21-23.

02 ヨブ記 19:25-26、1 コリント 15:20、42-46、54、ピリピ 3:21、1 ヨハネ 3:2.

霊魂が滅絶するとかというのは最も違います。このようなことは聖書にない内容です。一方で、神の民でない者はその霊魂が、地獄に落ちて苦しみを受けるようになります（ルカ 16:23）。結局、死を通して義と認められた者と、悪人とは完全に分離されます（ルカ 16:22-23）。

② 霊魂の不滅については異邦人たちも言います。しかし、体の復活は、ただ神によって啓示された真理であり、すでに、族長時代の時から告げられました（ヨブ 19:25, 27；、詩 16:9）。イエスさまは、体の復活を信じないサドカイ人を叱りました（マタイ 22:29）。神は人をチリで造りました。そして、全能なる御力によって再び体を造られます。このことは、1 コリント 15 章 42-44 節で語っていません。

復活は、三位の神の御業です。しかし、厳密な意味からして、これは、キリストの働きですが、体の復活はキリストの贖いの御業を構成するからです。従って、キリストは死人を生き返らせることで復活の力を見せてくださいました。（マタイ 9 章、ルカ 7 章、ヨハネ 11 章）。体が復活する時、霊魂と再び結び合わされるでしょう。救いと栄光の楽しみのために完全な人として回復されるのです。まるで、バビロン捕虜として引きずられて行き散らされたが回復されるのと同じです（エゼキエル 37:5-6）。

③ 体の復活は、キリストの栄光ある体のようになるのです。キリストはこの体を持ち、天に昇天されました。キリストの復活の体は墓に寝かせてられていたその体と同じ体です。これは、弟子たちが確認したことでした。この栄光の体は霊的な体になるでしょう（1 コリント 15:44-46）。食べ物が必要されなく、飲みものと、眠ることが必要されない、制限がない体です。キリストが復活された時、弟子たちが集まっていた部屋の戸は閉められていたのに、何の妨げもなく弟子たちに現れたことと同じです（ヨハネ 20:19、20）。

この体は、神の御前に相応しい体です（1 コリント 13:12）。朽ちることもなく、すり減らされることもありません（ルカ 20:36）。このような体の復活の目的は、

神の栄光です（創 16:4、1 コリント 15:28）。体の復活について私たちは慰めを受けられます。この地での苦難を耐え忍びながら、体の贖われることを待ち望めるからです（ロマ 8:18, 23）。

体の復活を信じなかったサドカイ人たちは、大変世的でした。しかし、体の復活を信じ、待ち望む私たちは敬虔に生きるしかありません（使徒 24:15-16）。復活の力がどれだけ大きいのかについて驚きますが、この力について信仰を持つべきです。アブラハムは復活の力を信じました（ヘブル 11:17-18）。このように、体の復活が私たちに与える慰めは、苦難に耐え、望みの中で、体の贖われることを待ち望むようにさせます（ロマ 8:18-23）。

質問 58. 「とこしえの命」という箇条は、あなたにどのような慰めを与えますか。

答え I 私は今、永遠の喜びの始まりを心に味わっているように、⁰¹この生涯の後には、目が見もせず、耳が聞きもせず、人の心に思い浮かびもしなかったような、完全な救いをゆずり分として受けられ、その結果として、そこで、永遠の神をほめたたえるようになる、ということです。⁰²

① 肉体を持っている霊魂は、永遠の生活について完全に理解することはできません。パウロが天に上られた体験について語ったとき、それを表現することができませんでした（Ⅱコリント 12:4）。それにも関わらず主は、ご自分の愛する者たちのために、ある程度、啓示してくださいました。それで、この地において、天の味を見るように許可してくださいました（1 コリント 2:9-10）。

01 創世記 2:17.

02 ロマ 8:3、ピリピ 2:8、ヘブル 2:9、14-15.

私たちは、新生を通して、神の奥義の実現と永遠の生活について悟ることができ（1 ペテロ 1:3、ヨハネ 3:36）永遠の喜びを先に味わうことができます。それは、心で味わえますが、すなわち神の平安です（ヨハネ 14:27、ロマ 5:1）。しかし、私たちは、まだ誘惑と苦難の下にいるので、完全で永遠の喜びは得られないのです（ロマ 8:24）。

② 死後の救いについて、私たちは今、完全に知ることはできなく述べることもできません。完全な救いは、目で見ることでもできず、耳で聞くこともできず、心で思い浮かぶこともできないからです。しかし、救いを得たすべての幸いな者たちは、この世以降に、彼らに恥ずかしめることや傷つくことなどはないでしょう。彼らに侮辱的なこともなく、貧しさのゆえに悩んだり心配したりすることもないでしょう。彼らは、苦しみと弱さと病と死によって悲しむことなどもないでしょう。彼らはそれ以上、飢えたり渴いたりすることはありません（黙 7:16）。主は、彼らの涙をぬぐい取ってくださり、もはや死もなく、悲しむこともないでしょう（黙 21:4）。彼らは、すべての罪悪から救いを得られるからです。

③ 彼らは永遠の幸せを味わうようになりますが、神とキリストを見上げるでしょう。神は霊であるから、肉の目では見ることはできない方です。しかし、彼らは、贖い主であるキリストを栄光の中で見上げることでしょう。神の完全さと、永遠の救いの実現について完全に理解できるようになるでしょう（マタイ 5:8）これ以上、鏡にぼんやり映るのを見るのではなく、ハッキリ見られるでしょう。その以前までは、人間の罪悪による偏見によって、神の知恵に対して確かに理解できなかったことが、今や、その知恵と御力と善と栄光の深さを知るようになるでしょう。そして、その栄光に圧倒されるでしょう（1 ヨハネ 3:2）。モーセが経験したことより（民 12:8）はるかに栄光に満ちる神の姿に喜ぶことでしょう。顔と顔を合わせて見ることのできる経験をするようになるでしょう（1 コリント 13:12）。神を見上げながら、彼らは、その栄光にあって、神と同じようになるでしょう（1 ヨハネ 3:2、II コリント 3:18）。従って、神の御顔を見る者は幸

いな者です（黙 22:4）。

④ 救いは、信じる者すべてに同じように与えられます。しかし、栄光にあっては異なります（マタイ 20:9-10、1 コリント 15:41）。救いの目的は、神を永遠にほめたたえるためです。神の形に更新された者たちがすべきことは、賛美を捧げることです（黙 7:9-10, 15）。このようなどこしえの命は、この地にいる私たちに慰めを与えます。この永遠の命を持った者たちには、確かな証拠がありますが、生きている信仰、あるいは、活気ある信仰（1 ヨハネ 5:10-11）。聖なる生き方（1 ヨハネ 3:3）。天上を見上げる熱望（詩 42:2）です。